



タイトル「**2024年度危機管理学部(公開用)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT4603S		
科目名	ゼミナールⅢ		
担当教員	工藤 聡一		
対象学年	3年,4年	開講学期	後期
曜日・時限	水 4		
講義室	1005	単位区分	必
授業形態	演習・ゼミナール	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門統合		
科目小分類	専門統合・演習		
科目の位置付け（開発能力）	■DPコード：学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP1－E〔学識・専門技能〕専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 DP4－F〔探究力・課題解決力〕問を設定し又は論点を特定し、それに対する答・結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うとともに、オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし、検証し実行することができる。 DP5－J〔創造的挑戦力・達成力〕コンピテンスの開発を生涯にわたり継続して行うことを、自ら思考及び行動のパターンとするともに、既存のアイデアを革新的かつ創造的に統合し、リスクをとりながら、結果に結びつけることができる。 DP6－K〔表現力・対話力〕文章及び口頭で、自らの答えを的確に表現し、他者に過不足なく伝達することができる。 DP7－L〔協働力・牽引力〕集団的に課題解決を行う際に、自己の立場や責任を認識し、互いに集団の連帯を強めることができる。 DP8－M〔省察力〕知識と経験とを関連付け学修成果を活用可能な状態に高めるとともに、これを新しく複雑な状況に転移させ課題解決につなげることができる。 ■CRコード：学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（CR）との関連 E1 学識と専門技能（20%） F1 探究と論拠（10%） J2 創造的思考（10%） K1 ライティング・コミュニケーション（20%） K2 オーラル・コミュニケーション（10%） L2 チームワーク（10%） M1 統合的・応用的学修（20%）		
教員の実務経験	ありません。		
成績ターゲット区分	■成績ターゲット：能力開発の目標ステージとの対応 3 発展期 ～ 4 定着期		
科目概要・キーワード	危機管理学とその基礎となる法学に関する専門的な研究活動を実践するために、必要な研究の手法を学び、学生自らが個人の研究テーマを設定し、研究論文を執筆するための指導を行います。ここでは、卒業論文につながる個人研究に関して、実際に文献収集や社会調査、事例分析や判例研究などの実証的な研究活動を通じて、オリジナルな一次資料による個人研究の作業を開始します。授業は演習により行います。 授業は演習形式によります。なお、授業を補完・代替するためにオンライン授業（ライブ配信型）を取り入れる場合があります。		

	■キーワード 危機管理学、法学、研究テーマの設定、卒業論文、文献収集、事例分析						
授業の趣旨	■副題 国際航空法の研究 ■授業の目的 危機管理に関する研究テーマの探求、研究手法の修得、研究成果の発表の各過程、及び他者と研究連携を通じて、学識・専門技能に加え、創造的な思考、表現力・対話力、チームワークや省察力等の各汎用的能力を開発することを目的とします。 ■授業のポイント 本演習では、学生自らが危機管理に関する問題を発見し、仮説を構築し、自力で仮説を検証することにより、問題の解決につなげるための能力を養います。内容としては、国際航空法の現代的課題を扱います。個人の興味関心を、学術研究の対象として客観化し、その解明のために他者と一定の連携を保ちつつ、単独で研究分析を進め、その成果を卒業ファースト・ドラフトとして発表することまでを行います。						
総合到達目標	■旺盛な関心をもって法学及び危機管理学に関する問題を論理的・批判的に考究することができる。 ・国際航空法の諸問題を、航空の実態と関連付けつつ、考察対象として認識することができる（第1回～15回）。 ・国際航空法の諸問題を、自己の経験や目標と関連付け、学修意欲につなげることができる（第1回～15回）。 ■グループ学修において他者と協調しながら問題を科学的な手法によって分析することができる。 ・国際航空法の重要問題を特定し、それに対する結論を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うことができる（第1回～15回）。 ・国際航空法の重要問題の分析を、他者との協調により多角的、批判的に行うことができる（第1回～15回）。 ■問題を論理的に解釈して知見を見出すとともに、その成果を適切に表現することができる。 ・国際航空法に関する資料について、用語の意義や文脈を適切に把握しつつ、活用可能な知識として取り込むことができる（第1回～15回）。 ・国際航空法の諸問題について、十分な根拠をもって、必要な推論を展開することができる（第1回～15回）。 ・国際航空法の諸問題について、目的、構成、内容に配慮しつつ、分野固有の規律に従って、口頭又は文章によるコミュニケーションを適切にとることができる（第1回～15回）。						
成績評価方法	■授業参加度（15回）50%：E1,F1,J1,K1,K2,L1,M1 （評価の観点）学究的な姿勢、個人研究における学生間連携と相互検証の適切さを評価します。 （フィードバックの方法）演習中、必要に応じてコメントします。 ■パフォーマンス（卒論中間発表）（1回）50%：E1,F1,J1,K1,K2,L1,M1 （評価の観点）口頭発表ならびに学術論文としての水準、構成や表現、資料の扱いの適切さを評価します。 （フィードバックの方法）発表準備・執筆過程において、随時コメントします。						
履修条件	特にありません。						
履修上の注意点							
授業内容	<table><tr><th>回</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td> ①授業テーマ ガイダンス、卒論の意義 ②授業概要 卒論の意義を確認し、その形式や内容の要件を確認し、またその完成に向けた授業の流れを理解する。（E1,F1,J1,K1,K2,L1,M1） ③予習（120分） 市販の研究指南書を手にとり、学術論文、卒業論文の意義について考える。 ④復習（120分） silm（三軒茶屋ラーニング・イニシアティブ・マニュアル）の適用ループリックのコンピテンシーを概観する。 </td></tr><tr><td>2</td><td> ①授業テーマ 年間計画の立案 ②授業概要 卒業論文の執筆及び発表までの1年間のスケジュールを立案する。 （E1,F1,J1,K1,K2,L1,M1） ③予習（120分） </td></tr></table>	回	内容	1	①授業テーマ ガイダンス、卒論の意義 ②授業概要 卒論の意義を確認し、その形式や内容の要件を確認し、またその完成に向けた授業の流れを理解する。（E1,F1,J1,K1,K2,L1,M1） ③予習（120分） 市販の研究指南書を手にとり、学術論文、卒業論文の意義について考える。 ④復習（120分） silm（三軒茶屋ラーニング・イニシアティブ・マニュアル）の適用ループリックのコンピテンシーを概観する。	2	①授業テーマ 年間計画の立案 ②授業概要 卒業論文の執筆及び発表までの1年間のスケジュールを立案する。 （E1,F1,J1,K1,K2,L1,M1） ③予習（120分）
回	内容						
1	①授業テーマ ガイダンス、卒論の意義 ②授業概要 卒論の意義を確認し、その形式や内容の要件を確認し、またその完成に向けた授業の流れを理解する。（E1,F1,J1,K1,K2,L1,M1） ③予習（120分） 市販の研究指南書を手にとり、学術論文、卒業論文の意義について考える。 ④復習（120分） silm（三軒茶屋ラーニング・イニシアティブ・マニュアル）の適用ループリックのコンピテンシーを概観する。						
2	①授業テーマ 年間計画の立案 ②授業概要 卒業論文の執筆及び発表までの1年間のスケジュールを立案する。 （E1,F1,J1,K1,K2,L1,M1） ③予習（120分）						

	単位取得状況、就職活動状況等を勘案し、1年間を通じて研究に割り当てられる時間を算出する。 ④復習（120分） 授業中に立案した年間計画の妥当性を検証する。
3	①授業テーマ テキスト・クリティーク（文献の批判的検討）① ②授業概要 自己の興味関心に即して、航空法の文献を収集し、研究テーマとしての成立可能性を意識しながら、分析及び要約等の整理を行う。（E1,F1,J1,K1,K2,L1,M1） ③予習（120分） 航空法、宇宙法に属する研究素材を収集する。 ④復習（120分） 授業中に配布された文献「文献評価シート」に即して、収集した文献を分析する。
4	①授業テーマ テキスト・クリティーク（文献の批判的検討）② ②授業概要 自己の興味関心に即して、航空法の文献を収集し、研究テーマとしての成立可能性を意識しながら、分析及び要約等の整理を行う。前回のテキスト・クリティークの結果を反映させ、文献収集範囲の絞り込み・追加・変更を行う。（E1,F1,J1,K1,K2,L1,M1） ③予習（120分） 航空法、宇宙法に属する研究素材を収集する。 ④復習（120分） 授業中に配布された文献「文献評価シート」に即して、収集した文献を分析する。
5	①授業テーマ テキスト・クリティーク（文献の批判的検討）③ ②授業概要 自己の興味関心に即して、航空法の文献を収集し、研究テーマとしての成立可能性を意識しながら、分析及び要約等の整理を行う。前回までのテキスト・クリティークの結果を反映させ、分析した文献の相互関係から「情報の単位化」を行う。（E1,F1,J1,K1,K2,L1,M1） ③予習（120分） 航空法、宇宙法に属する研究素材を収集する。前回までのテキスト・クリティークの結果を反映させ、収集範囲の絞り込み・追加・変更を行う。 ④復習（120分） 授業中に配布された文献「文献評価シート」に即して、収集した文献を分析する。
6	①授業テーマ テキスト・クリティーク（文献の批判的検討）④ ②授業概要 自己の興味関心に即して、航空法の文献を収集し、研究テーマとしての成立可能性を意識しながら、分析及び要約等の整理を行う。前回までのテキスト・クリティークの結果を反映させ、単位化された文献の序列化を行う。（E1,F1,J1,K1,K2,L1,M1） ③予習（120分） 航空法、宇宙法に属する研究素材を収集する。前回までのテキスト・クリティークの結果を反映させ、収集範囲の絞り込み・追加・変更を行う。 ④復習（120分） 授業中に配布された文献「文献評価シート」の書式に即して、収集した文献を分析する。
7	①授業テーマ テキスト・クリティーク（文献の批判的検討）④ ②授業概要 自己の興味関心に即して、航空法の文献を収集し、研究テーマとしての成立可能性を意識しながら、分析及び要約等の整理を行う。前回までのテキスト・クリティークの結果を反映させ、単位化された文献の合成を行う。（E1,F1,J1,K1,K2,L1,M1） ③予習（120分） 航空法、宇宙法に属する研究素材を収集する。前回までのテキスト・クリティークの結果を反映させ、収集範囲の絞り込み・追加・変更を行う。 ④復習（120分） 授業中に配布された文献「文献評価シート」に即して、収集した文献を分析する。
8	①授業テーマ リサーチ・マッピング（研究計画）① ②授業概要 卒業論文の暫定テーマを決定し、ドラフトに向け、テキスト・クリティークの成果を

	踏まえて研究計画書を立案する。(E1,F1,J1,K1,K2,L1,M1) ③予習 (120分) 配布される「研究計画書」の書式に即して、卒論の執筆計画を検討する。 ④復習 (120分) 研究計画書の完成に必要な追加情報を収集する。
9	①授業テーマ リサーチ・マッピング (研究計画) ② ②授業概要 卒業論文のドラフトに向け、テキスト・クリティークの成果を踏まえて、研究計画書を立案する。(E1,F1,J1,K1,K2,L1,M1) ③予習 (120分) 前回作成した「研究計画書」に即して、文献評価シートをファイルする。 ④復習 (120分) 研究計画書の完成に必要な追加情報を収集する。
10	①授業テーマ パイロット・スタディ (予備研究) ① ②授業概要 卒論の暫定テーマ及び研究計画に即して、予備的な研究を行う。 (E1,F1,J1,K1,K2,L1,M1) ③予習 (120分) 研究計画書によって体系付けられた文献を横断的に検討する。 ④復習 (120分) 追加的な文献の収集と分析を行う。
11	①授業テーマ パイロット・スタディ (予備研究) ② ②授業概要 卒論の暫定テーマ及び研究計画に即して、予備的な研究を行う。 (E1,F1,J1,K1,K2,L1,M1) ③予習 (120分) 研究計画書によって体系付けられた文献を横断的に検討する。 ④復習 (120分) 追加的な文献の収集と分析を行う。
12	①授業テーマ パイロット・スタディ (予備研究) ③ ②授業概要 卒論の暫定テーマ及び研究計画に即して、予備的な研究を行う。 (E1,F1,J1,K1,K2,L1,M1) ③予習 (120分) 研究計画書によって体系付けられた文献を横断的に検討する。 ④復習 (120分) 追加的な文献の収集と分析を行う。
13	①授業テーマ パイロット・スタディ (予備研究) ④ ②授業概要 卒論の暫定テーマ及び研究計画に即して、予備的な研究を行う。 (E1,F1,J1,K1,K2,L1,M1) ③予習 (120分) 研究計画書によって体系付けられた文献を横断的に検討する。 ④復習 (120分) 追加的な文献の収集と分析を行う。
14	①授業テーマ 卒論中間発表① ②授業概要 パイロット・スタディの成果を、卒論の途中経過報告として発表し、学生同士で批評しあう。(E1,F1,J1,K1,K2,L1,M1) 発表に引き続いて、講評を行います。 ③予習 (120分) 配布する「卒論フォーマット」に即して、パイロット・スタディの成果を卒論ファースト・ドラフトとして整理する。 ④復習 (120分) 発表に対して受けた意見を反映させて、研究計画書ないしファースト・ドラフトを修正する。

	15 ①授業テーマ 卒論中間発表① ②授業概要 パイロット・スタディの成果を、卒論の途中経過報告として発表し、学生同士で批評しあう。(E1,F1,J1,K1,K2,L1,M1) 発表に引き続いて、講評を行います。 ③予習(120分) 配布する「卒論フォーマット」に即して、パイロット・スタディの成果を卒論ファースト・ドラフトとして整理する。 ④復習(120分) 発表に対して受けた意見を反映させて、研究計画書ないしファースト・ドラフトを修正する。
関連科目	①演習系科目としては、「自主創造の基礎」「基礎ゼミ」「ゼミナール」と関連します。とくに「ゼミナールⅣ・Ⅴ」における研究成果のとりまとめの前提となる作業です。②講義科目については、「ロジスティクス」「企業取引と法」「事故責任法制」「インフラセキュリティ」、「国際法」、「プライバシーと法」と関連します。
教科書	藤田勝利編『新航空法講義』(信山社, 2007年)
参考書・参考URL	(マギル大学航空宇宙法研究センターHP) https://www.mcgill.ca/iasl/centre/research (国際民間航空機関HP・セキュリティ) https://www.icao.int/Security/Pages/default.aspx (国際航空運送協会HP・セキュリティ) http://www.iata.org/whatwedo/security/Pages/index.aspx その他、授業に指示します。
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 開講時に指示します。 ■オフィスアワー 木曜昼休み。それ以外の時間については、メール等でアポイントメントをとって来室ください。
研究比率	■危機管理領域との対応 災害マネジメント30%; パブリックセキュリティ30%; グローバルセキュリティ30%; 情報セキュリティ10% ■危機管理と法学とのバランス 危機管理40%; 法学60%

